



力不足で敗退

会越 御神楽岳ムサ沢右岸尾根

栗原

【日時】 2007年2月10日～12日

【メンバー】 栗原L 大田原

ずっと登りたいと思っていながらなかなか登れない御神楽岳。厳冬期ではあるが、今年この寡雪なら行けるかも知れない。メンバーは案の定大田原さんと二人になったが、トライしてみることにした。

2/10 朝、タクシーで室谷集落外れの除雪終了点に降り立ち、小雨降る中ワカンをつけて歩き出す。新潟方面はあいにくと3日間とも天気予報が芳しくない。せめて雨も雪もあまり降らないでくれと祈りつつ歩く。前沢に続く林道の入口を間違え、途中林の中を行くが、無事林道に合流、再び林道を外れ前沢に下り、浅瀬を渡渉する。適当なところからムサ沢右岸尾根の左稜に取り付く。雪はそれほど深いわけではないが、締まっておらずグサグサで、時折踏み抜きもあり、疲れる雪だ。荷物を担いで登るのは1ヶ月ぶりという大田原さんは少しつらそう。二人でビショビショになりながら交代でラッセルする。地形図の岩マークの所は細くて多少岩が出ていたものの難なくクリア。翌日の行程を考えるとなるべく先に進んでおきたいところだが、その先いい天場もなさそうだったので、予定通り二重稜線になったところで幕とする。びしょ濡れの服や手袋を少しでも乾かしたかったが、容易には乾かず、あきらめた。夜半、雨が雪に変わり、翌日の積雪が気になるころだ。

2/11 小雪が舞っているが、懸念された積雪はそれほどでもなく、予定通り進むことにする。是非山頂まで行きたいところだが、今日はザイルワークもあり、時間がかかりそうだ。夏道との合流点でのタイムリミットを14:00と決め、ラッセルする。ここからは尾根が細くなり、傾斜も急になる。雪はやはりグサグサで、踏み抜くと腿まで埋まったりして、容易に進まない。ようやくたどり着いた核心部では2ピッチザイルを伸ばす。別に難しいところはないのだが、雪を踏み抜いたり支点到に迷ってやっぱり時間を食ってしまった。あとはひたすらラッセル、時間との競争だ。だが、核心部を過ぎた時点で既に12時を回っており、夏道との分岐にたどり着いたのはタイムリミットを越えた14:45、あと1時間も登れば山頂だが、残念ながらあきらめ、下降に入ることにした。

下降は大森山から p 815 に下る尾根が分かりづらかったが、なんとか815m付近にたどり着いた。平らなスペースにテントを張る。雪の状態から明日の行程が案ぜられ、時間のかかりそうな予定の尾根をやめ、林道に直接下りる p 355 を通るルートに変更した。

このルートなら雪の状態によって夏道を下るという手もある。まあ、下りだし、2時くらいには下れるだろうとこの時は思っていた。夜半、50cmくらい雪が積もった。

2/12 タベの降雪で、いきなり腿ラッセルとなる。下りなのに時間がかかり、以前多量の降雪による下りラッセルと道間違えで下山が暗くなってしまった時のことが頭をよぎる。案の定、途中で道を外し、現在地がよく分からなくなってしまった。まあ、方角的に大きくは外れていないだろうとタカをくくって強引に下りてしまったのが間違いだった。夏道があるはずの沢に下りても、行けども行けども林道が出てこない。やはり沢じゃなくて尾根を行った方がいいかも、と尾根を登り返すが、登り返しに2時間もかかってしまった。これも失敗で、少し行くと岩峰が出てきた。右から巻くが、次に出てきた岩峰は巻くこともできず、また沢に下りる。ここで大田原さんの推測により、我々はセト沢でなく前沢にいる可能性が発覚した。ならばこのまま前沢沿いに下って行けば、



最初の渡渉点に突き当たる。この時点で時間が相当経っており下山遅延の可能性もあるため、濡れることを厭わず沢に行くことにした。ジャブジャブと沢を下るが厳冬期とは思えぬほど暖かいのが救いだ。しばらく行くと、ようやく見覚えのある渡渉点にたどり着いた。これで一安心、あとは林道に行くのみ、ではあるが、やはりラッセル、

ここは忍耐強い大田原さんが一人黙々とラッセルをしてくれる。2時間以上歩いてすっかり暗くなった頃ようやく室谷の集落にたどり着いた。

力不足で山頂を踏めず、下りも道迷い、と反省の多い山行になってしまったが、次はこの反省を元に、同じ轍を踏まぬよう心してゆきたい。

【行程】 2/10 室谷川の橋 (8:00)～前ノ沢渡渉点 (9:10)～テン場 (15:25)

2/11 テン場 (6:20)～核心部2p目上 (12:10)～下りへの分岐点 (14:45)～テン場 (16:20)

2/12 テン場 (6:35)～尾根上へ登り返し (10:45)～前ノ沢渡渉点 (15:25)～室谷川の橋 (17:35)

【地図】 御神楽岳・室谷